

平成 20 (2008) 年度事業報告

I 山岳および登山に関する学術調査および研究について

(定款第二章(目的および事業)第五条第一項)

1. 昭和 54(1979)年に設立されたヒマラヤ委員会を適宜開催し、崑崙山脈、雲南省、チベット自治区などの中国、ならびにブータンにある高峰への学術登山隊派遣について検討を重ねた。
2. カラコラム、ネパール、中国、ブータン、ヒンズークシおよび南極地域における登山ならびに学術探検に関する研究会を開いた。また、昭和 48(1973)年春のネパール・ヤルン・カン峰遠征隊、昭和 49(1974)年カラコラムK12 峰遠征隊、昭和 52(1977)年ネパール・ランタン谷予備調査隊、昭和 56(1981)年チベット高原予備調査隊、昭和 57(1982)年チベット高原学術登山隊、昭和 58, 59(1983, 1984)年ブータン・ヒマラヤ予備調査隊、昭和 60(1985)年ブータン・ヒマラヤ学術登山隊、および日中友好納木那尼峰合同登山隊、昭和 63(1988)年崑崙山学術登山隊、平成元(1989)年雲南省科学調査隊、ムスターグ・アタ峰医学学術登山隊および第1次梅里雪山峰学術登山隊、平成 2(1990)年シジャパンマ峰医学学術登山隊、および平成 8(1996)年第 3 次梅里雪山峰学術登山隊によってもたらされた各種資料・文献を引き続き調査した。
3. 昭和 48(1973)年 4 月 1 日をもって本会内に設立された旧国際登山探検文献センターで収集された登山探検資料を、京都大学総合博物館ならびに京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に寄贈し、文献資料目録を編纂するとともに引き続き資料の充実と収集資料の整理を行った。
4. 雲南・チベット地域の総合的研究を目的とする雲南懇話会の設立に会員前田栄三らが協力し、同会の代表として会員安仁屋政武が運営に協力した。
5. 平成 20(2008)年 11 月、本会による 1958 年チョゴリザ峰登頂の 50 周年を記念し、京都市左京区芝蘭会館にて本会主催(京都大学霊長類研究所ならびに野生動物研究センターとの共催、京都大学総長裁量経費の支援)による「パイオニアワークとしての登山・探検・フィールドサイエンス」と題するシンポジウムを開催し、過去 50 年のヒマラヤを取り巻く状況の変化とパイオニアワークの今後について議論した。また、併せて京都大学霊長類研究所ならびに野生動物研究センターとの共催により、1958 年の桑原武夫隊長らのヒマラヤ初登頂、西堀栄三郎越冬隊長らの南極初越冬、今西錦司・伊谷純一郎のアフリカ初探検を記念した「アフリカ・南極・ヒマラヤ」記念展示を京都大学時計台百周年記念館で2か月間開催し、多数の来場者を得た。

II 一般社会に対する健全な登山の指導・奨励について

(定款第二章(目的および事業)第五条第二項)

1. 平成 20(2008)年 8 月、京都大学山岳部との共催で夏期登山講習会を新潟県妙高市京都大学笹ヶ峰ヒュッテで開催した。
2. 平成 20(2008)年 12 月から平成 21(2009)年 1 月まで京都大学山岳部との共催で冬期スキー登山講習会を新潟県妙高市京都大学笹ヶ峰ヒュッテで開催した。
3. 社団法人日本山岳会の評議員として会員岩坪五郎、関西支部評議員として平井一正、京都支部副支部長として田中昌二郎が同会の運営に協力し、国内外の登山探検の振興に努めた。
4. 社団法人日本山岳協会の国際部海外委員として睦好正治が同会の運営に協力し、国外の登山探検の振興に努めた。
5. 国際山岳連盟(UIAA)の医学委員として会員中島道郎が同会の運営にあたった。
6. 平成 20(2008)年 7 月、湖東西堀研究会の主催により新潟県妙高市京都大学笹ヶ峰ヒュッテにて「子供ゆめ基金」助成活動「笹ヶ峰でトレッキングに挑戦」が開催され、会員斎藤惇生、上

田豊が現地での講演会にて講師を務め、新井浩、原剛、山田和人が現地生活と登山に関する指導者として協力した。

III 国内外における登山および探検の企画および協力について

(定款第二章(目的および事業)第五条第三項)

1. 平成 20(2008)年 5 月から 11 月、新潟県妙高市笹ヶ峰において、会員 田中二郎、上尾庄一郎、原田道雄、横山宏太郎、原剛、高尾文雄、山田和人、中山茂樹らが京都大学山岳部との共同で同山岳部の管理する京都大学笹ヶ峰ヒュッテの建物耐久性調査に参加、協力した。

IV 山岳登山に関する図書および機関誌などの刊行について

(定款第二章(目的および事業)第五条第四項)

1. 「平成 19(2007)年度事業報告ならびに平成 20(2008)年度事業計画」を作成し会員に配布した。
2. AACK Newsletter 45 号～48 号の編集・発行を行い、会員相互の情報交換を図った。
3. AACK 時報第 14 号の編集を行った。
4. 本会の公式ウェブサイト(www.aack.or.jp)を運営し、本会の歴史や事業活動および社会的貢献について広く情報公開すると共に、会員および会員外の情報交換の場を提供した。
5. 京都大学ヒマラヤ研究会が発行するヒマラヤ学誌第9号の編集・発行に協力し、同誌を会員に配布した。

V 目的を同じくする国内および国外の団体との連絡および情報の交換について

(定款第二章(目的および事業)第五条第五項)

1. 日本・パキスタン合同のサルトロ・カンリ峰遠征隊の成功を契機として続けられているパキスタンの山岳会とくにカラコラムクラブとの交流をさらに深め、もって友好関係にある両国登山界の発展に寄与し、ひいては日本・パキスタン両国の親善に貢献した。
2. 昭和 55(1980)年、中国登山協会代表の本会訪問を契機として始まり、カンペンチン峰、ナムナニ峰合同登山隊以降続けられてきた中国登山協会との協力をさらに深め、もって友好関係にある両国登山界の発展に寄与し、ひいては日本・中国両国の親善に貢献した。
3. 昭和 56(1981)年に設立された日本ブータン友好協会との交流を通じ、両国の友好を深め、両国登山界の発展に寄与し、ひいては日本・ブータン両国の親善に貢献した。
4. 本会設立当時から続けられているネパール山岳関係者との交流を深め、もって友好関係にある両国山岳界の発展に寄与し、ひいては日本・ネパール両国の親善に貢献した。
5. ヒマラヤンクラブ、ポーランド山岳会、ドイツ山岳会、オーストリア山岳会、英国山岳会、アメリカ山岳会等との交流を深め、これら各国登山関係者との親善に貢献した。

VI その他前条の目的を達成するために必要な事業

(定款第二章(目的および事業)第五条第六項)

1. 平成 20(2008)年 6 月～10 月、中国雲南省明永氷河にて、明永村の協力を得て会員小林尚礼が本会主催の第2次梅里雪山峰学術登山隊員の遺品捜索にあたった。